

## 5 JCSS2005 による関西の3大学間比較

溝上 慎一  
(京都大学)

### 1. 問題と目的

世の中には、各大学が個別に実施してきた学生調査というものが多数存在する。それらは当該の大学にとっては有効な資料となるものの、他方で、他大学、全国の学生との比較を実質不可能ならしめるものであり、高等教育全体の視野で学生を見ようとするときに問題だと感じられる場合がある。大学生調査 JCSS (2005) の開発経緯は他章に譲るが、それがこれまでのそうした学生調査と決定的に異なる点は、大学間の比較検討を可能ならしめるかたちで開発された調査だということである。

もっとも、私立大学連盟の「学生生活実態調査」や大学生協連の「学生の消費生活に関する実態調査」などのように、全国規模で継続的におこなわれてきた学生調査がある。とりわけ私立大学連盟の「学生生活実態調査」は、質問項目の構成など JCSS と似通った部分が多く、類似性の高い調査であると言える。本稿は、JCSS の本来の主旨を鑑みて、個別大学の学生の傾向を主とした分析結果を報告するものである。

### 2. 分析

本章は、全国の多くの大学で実施された JCSS2005 のなかから、関西にある国立 K 大学、O 大学、私立 D 大学の2年生を対象として抽出し比較検討するものである。調査実施の事情で、O 大学、D 大学はすべての学部を十分なサンプルとして収集することができなかつたので、O 大学は人文系・工学系・医学系学部、D 大学は人文系・社会系学部に限定して分析をおこなった。分析

表 2.5.1 3大学の調査・分析サンプル

単位(人)

国立 K 大学		国立 O 大学		私立 D 大学	
総合人間学部	48	人文系学部	60	人文系学部	53
文学部	78	工学系学部	70	社会系学部	100
教育学部	34	医学系学部	83		
法学部	124				
経済学部	99				
理学部	100				
医学部	74				
薬学部	27				
工学部	316				
農学部	113				
不明	31	上記以外	27	上記以外	17
男性	812		147		91
女性	222		88		77
不明	10		5		2
小計(分析対象者)	1044		240		170
2回生以外	13		82		496
計	1057		322		666

を2年生に限定しておこなう理由は、大学教育を主文脈とする学生の大学生生活の質が1年生では十分見えてこない可能性があり、3年生では将来に関する質問項目が就職活動に影響を受ける可能性があると考えてのことである（JCSS2005の調査時期は概して秋であった）。表2.5.1に3大学の分析サンプルの概要を示す。

### 3. 結果と考察

紙面の関係ですべての分析結果を紹介することができないので、以下では主たるものを紹介し、考察することとする。

3-1 「問3 あなたは将来的に、どの程度までの進学を考えていますか」（設問番号はJCSS2005オリジナル版に対応している。詳しくはそちらを参照のこと。以下同様）

K 大学理学部学生の学生は8～9割が大学院進学を希望しているのに対して、経済学部の学生は84.8%が大学卒業程度を希望している。理学部学生の52.0%は博士後期課程への進学を希望している。D 大学人文・社会系学部の学生の8～9割は大学卒業程度を希望している。

表 2.5.2 あなたは将来的に、どの程度までの進学を考えていますか 単位：数（％）

	K 大学生	O 大学生	D 大学生
1 短期大学を卒業する	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	1 ( 0.6)
2 大学を卒業する	332 ( 31.8)	83 ( 34.7)	144 ( 84.7)
3 大学院や専門職大学院の修士課程を修了する	552 ( 52.9)	113 ( 47.3)	17 ( 10.0)
4 大学院や専門職大学院の博士課程を修了する	143 ( 13.7)	39 ( 16.3)	3 ( 1.8)
5 その他	16 ( 1.5)	4 ( 1.7)	5 ( 2.9)
合計	1043 (100.0)	239 (100.0)	170 (100.0)

3-2 「問5 あなたの高校での成績はどれくらいでしたか」

K 大学生の過半数は、高校時代の成績を「上位のほう」と認識している（55.2％）。学部別に見ると、理学部（67.0％）、薬学部（66.7％）がとくに高い。O 大学生も全体的には同様の傾向を示しており、とくに医学部の学生が目立って「上位のほう」と認識している（61.4％）。

対照的に、K 大学で「中の下くらい」、「下位の方」の該当率が高いのは経済学部の学生であっ

表 2.5.3 入学してから、あなたは次の項目をしましたか 単位：数（％）

	K 大学生	O 大学生	D 大学生
1 学生の同好団体（部、同好会、サークルなど）に加入した	876 ( 83.9)	197 ( 82.1)	136 ( 80.0)
2 単位を取得できなかった授業があった	892 ( 85.4)	73 ( 30.4)	114 ( 67.1)
3 学内でアルバイトやパートなど非常勤で働いた	139 ( 13.3)	20 ( 8.3)	29 ( 17.1)
4 学外でアルバイトやパートなど非常勤で働いた	885 ( 84.8)	194 ( 80.8)	146 ( 85.9)
5 正社員や契約社員など常勤で働いた	3 ( 0.3)	4 ( 1.7)	5 ( 2.9)
6 学生自治会に参加した	12 ( 1.1)	6 ( 2.5)	1 ( 0.6)
7 学力不足を補うため補習授業を履修した	17 ( 1.6)	10 ( 4.2)	7 ( 4.1)
8 人権や民族に関する授業を履修した	204 ( 19.5)	59 ( 24.6)	54 ( 31.8)
9 女性学の授業を履修した	23 ( 2.2)	45 ( 18.8)	14 ( 8.2)
10 異文化理解のワークショップに参加した	20 ( 1.9)	6 ( 2.5)	22 ( 12.9)
11 学生寮などで留学生の学友と生活した	45 ( 4.3)	2 ( 0.8)	4 ( 2.4)
12 人権に関する国際的な学生組織に参加した	2 ( 0.2)	0 ( 0.0)	2 ( 1.2)
13 大学間対抗の運動競技会に出場した	113 ( 10.8)	43 ( 17.9)	9 ( 5.3)
14 復学や再入学をした	8 ( 0.8)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)
15 優秀な学生のために設けられた授業を履修した	6 ( 0.6)	1 ( 0.4)	5 ( 2.9)
16 インターシップのプログラムに参加した	9 ( 0.9)	2 ( 0.8)	12 ( 7.1)
17 リーダー養成やキャリア開発の訓練に参加した	6 ( 0.6)	1 ( 0.4)	4 ( 2.4)
18 他の4年制大学から編入した	0 ( 0.0)	1 ( 0.4)	1 ( 0.6)
19 海外研修プログラムに参加した	14 ( 1.3)	2 ( 0.8)	8 ( 4.7)
合計	1044 (100.0)	240 (100.0)	170 (100.0)

た(それぞれ 8.1%, 9.1%, 計 17.2%)。D 大学生の該当率は「中の上くらい」がもっとも多く(36.5%), 次いで「上位のほう」(23.5%)であった。

### 3-3 「問6 入学してから、あなたは次の項目をしましたか」

K 大学生では「単位を修得できない授業があった」(85.4%), 「学外でアルバイトやパートなど非常勤で働いていた」(84.8%), 「学生の同好団体に加入した」(83.9%)の該当率が高かった。O 大学生は, K 大学生(85.4%), D 大学生(67.1%)に比べて「単位を修得できない授業があった」の該当率がかなり低かった(30.4%)(表 2.5.3 参照)。

### 3-4 「問7 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか」

K 大学生でもっとも該当率が高かったのは「研究や宿題のためにインターネットを使った」(2.64), 「授業をつまらなく感じた」(2.45), 「他の学生と一緒に勉強した」(2.11), 「インターネットを使って授業課題を提出した」(2.09)であった。O 大学生, D 大学生でもこの傾向は同様であった(表 2.5.4 参照)。

逆に K 大学生で該当率が低かったのは, 「学生自治会の選挙に投票した」(1.05), 他の学生に学習補助者として教えた」(1.11), 「オフィスアワーなどの時間に大学教員と面談した」(1.16)であった。この傾向は, O 大学生, D 大学生でも同様であった。

表 2.5.4 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか

	K 大学生	O 大学生	D 大学生
1 自主的な学習プロジェクトに参加した	1.28 (0.54)	1.21 (0.47)	1.32 (0.54)
2 学際的な授業を履修した	1.37 (0.57)	1.37 (0.65)	1.43 (0.57)
3 授業の内容について他の学生と議論した	1.95 (0.63)	1.91 (0.58)	2.04 (0.67)
4 大学教員とその自宅や飲食店で懇親会をもった	1.26 (0.49)	1.21 (0.43)	1.28 (0.49)
5 学内のスポーツに参加した	1.54 (0.69)	1.53 (0.70)	1.57 (0.69)
6 提出期限までに宿題を完成できなかった	1.72 (0.64)	1.49 (0.60)	1.36 (0.56)
7 授業をつまらなく感じた	2.45 (0.52)	2.52 (0.55)	2.39 (0.50)
8 他の学生と一緒に勉強した	2.11 (0.63)	2.25 (0.62)	2.36 (0.63)
9 学生自治会の選挙に投票した	1.05 (0.23)	1.02 (0.14)	1.02 (0.13)
10 インターネットを使って授業課題を提出した	2.09 (0.65)	1.92 (0.62)	2.15 (0.79)
11 インターネットを使って授業課題を受けた	1.54 (0.66)	1.67 (0.66)	1.87 (0.85)
12 研究や宿題のためにインターネットを使った	2.64 (0.55)	2.64 (0.53)	2.78 (0.50)
13 アルバイトや仕事のために授業に出席できなかった	1.47 (0.65)	1.29 (0.53)	1.48 (0.65)
14 他の学生に学習補助者(チューター)として教えた	1.11 (0.36)	1.13 (0.40)	1.10 (0.32)
15 アルバイトや家族のために勉強する時間がなかった	1.52 (0.62)	1.58 (0.63)	1.68 (0.62)
16 オフィスアワーなどの時間に大学教員と面談した	1.16 (0.40)	1.14 (0.37)	1.07 (0.28)

(注) 表中の数字は「たびたびした」(3点)「たまにした」(2点)「まったくなかった」(1点)の平均点(S.D.)である。

### 3-5 「問8 もし大学を選び直せたら、あなたはもう一度、本学に進学しますか」

K 大学生は「かならず進学する」が 27.7%。学部別に見ると, 医学部(36.5%), 理学部(35.0%)の該当率が高かった。教育学部(17.6%), 総合人間学部(18.8%)は全体と比べてやや低い該当率であった。O 大学生は「かならず進学する」が 8.8%と, D 大学生の 13.7%よりも低い該当率を示していた。

### 3-6 「問9 あなたは本学にどれくらい満足していますか」

K 大学生は「図書館の施設や設備」(2.88), 「コンピューターの施設や設備」(2.64), 「専門分野の授業」(2.55), 「実験室の設備や器具」(2.51)に非常に満足している。O 大学生, D 大学生も同様の傾向を示していた(表 2.5.5 参照)。K 大学の経済学部学生の「奨学金など学費援助の制

度」(2.39)は他学部の学生には見られない高い該当率であった。

表 2.5.5 あなたは本学にどれくらい満足していますか

	K 大学生	O 大学生	D 大学生
1 共通教育あるいは教養教育の授業	2.18 (0.80)	1.92 (0.76)	2.21 (0.77)
2 科学や数学の授業	2.16 (0.83)	1.97 (0.74)	1.97 (0.77)
3 人文学の授業	2.22 (0.79)	2.04 (0.77)	2.18 (0.74)
4 社会科学の授業	2.23 (0.77)	2.10 (0.72)	2.35 (0.74)
5 あなたの専門分野の授業	2.55 (0.88)	2.57 (0.84)	2.45 (0.86)
6 日常生活と授業の内容との関連	1.96 (0.72)	1.80 (0.72)	2.16 (0.80)
7 授業の全体的な質	2.10 (0.80)	1.97 (0.81)	2.10 (0.78)
8 実験室の設備や器具	2.51 (0.82)	2.54 (0.78)	2.81 (0.84)
9 図書館の施設や設備	2.88 (0.82)	2.67 (0.89)	2.98 (0.73)
10 コンピューターの施設や設備	2.64 (0.89)	2.61 (0.89)	3.16 (0.70)
11 コンピューターの訓練や援助	1.97 (0.76)	2.00 (0.79)	2.44 (0.83)
12 インターネットの使いやすさ	2.28 (0.90)	2.34 (0.86)	2.97 (0.79)
13 大学のコミュニティー意識	1.90 (0.62)	1.89 (0.68)	2.11 (0.71)
14 個人別の学習指導や援助	1.58 (0.60)	1.52 (0.61)	1.67 (0.67)
15 学業成績に対する助言	1.74 (0.68)	1.66 (0.62)	1.62 (0.65)
16 就職のカウンセリングや助言	1.61 (0.60)	1.65 (0.56)	1.81 (0.76)
17 学生寮など大学内の居住施設	1.74 (0.72)	1.86 (0.65)	1.98 (0.82)
18 奨学金など学費援助の制度	2.14 (0.79)	2.13 (0.71)	2.09 (0.80)
19 大学教員と話しをする機会	1.78 (0.69)	1.73 (0.61)	1.63 (0.66)
20 ボランティア活動の機会	1.92 (0.52)	1.87 (0.51)	1.98 (0.70)
21 学生への就職斡旋サービス	1.75 (0.59)	1.78 (0.54)	2.00 (0.66)
22 大学が提供する保健サービス	2.12 (0.68)	2.26 (0.75)	2.51 (0.76)
23 1つの授業を履修する学生数	1.78 (0.67)	2.05 (0.68)	1.76 (0.78)
24 他の学生との相互交流	1.97 (0.75)	2.03 (0.73)	1.98 (0.92)
25 大学教職員による学生支援体制	1.73 (0.61)	1.68 (0.60)	1.80 (0.68)
26 リーダーシップを発揮する機会	1.92 (0.57)	1.86 (0.50)	1.90 (0.67)
27 レクリエーションの施設や設備	1.81 (0.69)	1.71 (0.65)	2.22 (0.75)
28 大学での経験全般について	2.50 (0.76)	2.31 (0.79)	2.46 (0.80)
合計	1021	235	169

(注) 表中の数字は“とても満足”(4)“満足”(3)“どちらでもない”(2)“不満足”(1)の平均点(S.D.)である。“わからない”(8)は欠損値扱いとした。

### 3-7 「問 13 あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか」

K 大学生で「大学の教員」の該当率が高いのは、文学部(14.3%)、理学部(14.1%)、教育学部(6.1%)で、「科学研究者」の該当率が高いのは薬学部(51.9%)、理学部(50.5%)、農学部(40.7%)であった。K 大学の医学部学生は「医師」を挙げる者が少なく(35.6%)、O 大学の医学系学生の 29.3%は「専業主婦」を挙げた。

K 大学生で「まだ決めていない」と回答した者は、文学部(28.6%)、総合人間学部(19.1%)で多く見られた。K 大学の薬学部学生は「まだ決めていない」が 3.7%で、圧倒的に回答率が低かった。O 大学の人文系学部学生は 3 大学のなかで「まだ決めていない」の回答率がもっとも高かった(29.3%)。

### 3-8 「問 15 過去一年間に、あなたは次の活動にどれくらいの時間を費やしましたか」

「大学で授業や実験」に(1週間あたり)20時間以上費やしている者は、K 大学生で 31.9%、O 大学生で 44.6%、D 大学生で 35.9%であった。「勉強や宿題」に(1週間あたり)3~5時間未満しか費やしていない者は、K 大学生で 65.0%、O 大学生で 42.9%、D 大学生で 69.2%であった。

「新聞を読んでいる」に「全然ない」と回答した者は、K 大学生で 38.3%、O 大学生で 34.6%、D 大学生で 31.2%であった。

「通学にかかる時間」に(1週間あたり)1時間未満費やしている者は、K 大学生で 44.1%、

O 大学生で 25.8% , D 大学生で 24.1% であった。

### 3-9 「問 17 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか」

K 大学生で、入学して「大きく増えた」能力や知識は、「専門分野や学科の知識」(4.16)、「コンピューターの操作能力」(3.81)、「一般的な教養」(3.77)であった。O 大学生、D 大学生も同様の傾向を示していた(表 2.5.6 参照)。K 大学を学部別に見ると、「批判的に考える能力」が教育学部(3.94)、文学部(3.81)で顕著に見られ、「人間関係を構築する能力」が医学部(3.59)で顕著に見られた。

表 2.5.6 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか

	K 大学生	O 大学生	D 大学生
1 一般的な教養	3.77 (0.70)	3.63 (0.73)	3.88 (0.66)
2 分析や問題解決能力	3.51 (0.80)	3.52 (0.76)	3.68 (0.74)
3 専攻分野や学科の知識	4.16 (0.66)	4.16 (0.56)	4.11 (0.59)
4 批判的に考える能力	3.60 (0.73)	3.47 (0.66)	3.81 (0.71)
5 外国語の能力	2.67 (1.05)	2.66 (1.05)	3.09 (1.11)
6 異文化の人々に関する知識	3.40 (0.66)	3.29 (0.64)	3.61 (0.67)
7 宗教的な信仰や信念	2.99 (0.48)	2.96 (0.44)	3.02 (0.57)
8 リーダーシップの能力	3.15 (0.68)	3.03 (0.66)	3.20 (0.70)
9 人間関係を構築する能力	3.44 (0.84)	3.38 (0.77)	3.67 (0.81)
10 異文化の人々と協力する能力	3.15 (0.50)	3.12 (0.49)	3.30 (0.63)
11 地域社会が直面する問題の理解	3.19 (0.56)	3.07 (0.53)	3.35 (0.65)
12 国民が直面する問題の理解	3.49 (0.64)	3.21 (0.61)	3.60 (0.62)
13 グローバルな問題の理解	3.47 (0.62)	3.26 (0.59)	3.62 (0.66)
14 文章表現の能力	3.22 (0.76)	3.22 (0.82)	3.56 (0.81)
15 プレゼンテーションの能力	3.32 (0.64)	3.41 (0.63)	3.65 (0.70)
16 数理的な能力	2.99 (1.02)	2.98 (0.87)	2.93 (0.94)
17 コンピューターの操作能力	3.81 (0.67)	3.90 (0.60)	3.98 (0.65)
全体	1035	234	170

(注) 表中の数字は、「大きく増えた」(5)「増えた」(4)「変化なし」(3)「減少した」(2)「大きく減少した」(1)の平均点(S.D.)である。

### 3-10 「問 18 あなたの人生にとって次の項目はどれくらい重要ですか」

K 大学生にとって人生にとってもっとも重要な項目は、「自分の生きたい人生を送る」(3.74)、「友人関係を大切にする」(3.63)であった。O 大学生、D 大学生も同様の傾向を示していた。K 大学を学部別に見ると、K 大学理学部の学生は「科学の理論的な発展に貢献する」(3.46)が顕著に高かった。

### 3-11 「問 19 あなたが本学に進学した理由として以下の項目はどれくらい重要ですか」

K 大学生の進学理由として該当率が高かったのは、「学生生活を楽しんでみたかったから」(3.22)、「大学で学ぶ内容に興味があったから」(3.22)であった。O 大学生、D 大学生も同様の傾向を示していた。K 大学を学部別に見ると、薬学部(3.22)、医学部(2.74)の学生は「資格を得るために必要だったから」の該当率が高かった。O 大学医学系学部の学生も同様の傾向を示していた(2.97)。

### 3-12 「問 20 本学に入学してから、あなたは次の項目にはどれくらいうまくいきましたか」

K 大学生にとって入学してうまくいったことは、「他の大学生との友情を深める」であった(2.20)。O 大学生、D 大学生も同様の傾向を示していた。逆に、「大学教員と顔見知りになる」はもっとも該当率が低かった(K 大学 1.38)。O 大学、D 大学生も同様の傾向を示していた。

### 3-13 「問 22 次の項目について、あなたと同年齢の人たちと比べて、あなた自身を自己評価し

てください」

K 大学生の自己評価上位 10%項目は、「学力」(19.6%)、「競争心」(12.9%)、「数理的な能力」(12.0%)で該当率が高かった(表 2.5.7 参照)。学部別に見ると、「学力」については理学部(23.2%)、法学部(22.3%)、文学部(21.1%)、工学部(21.0%)の該当率が高く、教育学部(6.1%)で圧倒的に低かった。「競争心」については、理学部(15.2%)、法学部(14.9%)、薬学部(14.8%)、

表 2.5.7 次の項目について、あなたと同年齢の人たちと比べて、あなた自身を自己評価してください(上位 10%の該当率) 単位：数(%)

	K 大学生	O 大学生	D 大学生
1 一般的な教養	119 (11.6)	18 (7.8)	5 (2.9)
2 学力	205 (19.9)	32 (13.9)	8 (4.7)
3 芸術的な能力	52 (5.1)	4 (1.7)	8 (4.7)
4 コンピューターの操作能力	52 (5.1)	4 (1.7)	3 (1.8)
5 競争心	135 (13.1)	18 (7.8)	14 (8.3)
6 協調性	106 (10.3)	10 (4.3)	17 (10.0)
7 創造性	74 (7.2)	4 (1.7)	8 (4.7)
8 やる気	120 (11.7)	16 (7.0)	23 (13.5)
9 情緒面での安定度	127 (12.4)	20 (8.7)	9 (5.3)
10 リーダーシップ	54 (5.3)	8 (3.5)	7 (4.1)
11 数理的な能力	125 (12.2)	20 (8.7)	4 (2.4)
12 体の健康	115 (11.2)	28 (12.2)	21 (12.4)
13 人気	29 (2.8)	2 (0.9)	7 (4.1)
14 スピーチの能力	48 (4.7)	3 (1.3)	8 (4.7)
15 知的面での自信	110 (10.7)	13 (5.7)	9 (5.3)
16 社交面での自信	57 (5.6)	2 (0.9)	15 (8.8)
17 自己の理解	103 (10.0)	24 (10.4)	23 (13.5)
18 宗教心や精神性	16 (1.6)	3 (1.3)	4 (2.4)
19 他者の理解	51 (5.0)	5 (2.2)	10 (5.9)
20 文章表現の能力	58 (5.6)	5 (2.2)	7 (4.1)
21 読解力	87 (8.5)	8 (3.5)	11 (6.5)
合計	1029 (100.0)	240 (100.0)	170 (100.0)

(注1) 回答は“上位 10%”“平均以上”“平均”“平均以下”“下位 10%”のいずれかに をつけるように求められた。

(注2) 欠損値のため、合計と各項目の該当率との関係が一致しない箇所がある。

工学部(14.3%)の該当率が高かった。「数理的な能力」については、理学部が群を抜いて高かった(26.3%)。そのほか、「やる気」は理学部(17.2%)、医学部(15.1%)で該当率が高く、教育学部は 0.0%であった。O 大学生の自己評価上位 10%項目は「学力」(13.3%)、「体の健康」(11.7%)で該当率が高く、D 大学生では「やる気」(13.5%)、「自己の理解」(13.5%)、「体の健康」(12.4%)で該当率が高かった。

3-14 「問 23 本学の大学教員は、あなたの次の活動をどれくらい提供しましたか」

K 大学では、「発表する機会」(1.73)、「学生と対等に接するような敬意」(1.70)、「学習能力を向上するための手助け」(1.59)の該当率ももっとも高かった。O 大学、D 大学も同様の傾向を示していた。

#### 4. 考察

前節の結果は、K 大学、O 大学、D 大学に共通するものとそうでないものとを分別すると、よりその特徴が明瞭化する。3 大学におおよそ共通して見られた特徴をまとめると次のようになる。

- ・ インターネットをよく使用しており、図書館・コンピューター設備、専門分野の授業などに

は満足している。したがって、入学以来、専門分野の知識、コンピューター操作能力、教養は身についたと感じている。これらは、広い意味で、学生たちは大学教育の提供する内容に満足していることを示すものだと考えられる。

- ・ 他方で、授業一般への不満は高く、オフィスアワーを経験したことがない者が多く存在する。オフィスアワーの未経験は、「大学教員と顔見知りになる」という項目への低い該当率につながっているかもしれない。これらは授業の仕方、教員と学生との関係といった大学教育の形式的側面を指摘するものだと言える。しかし、「発表する機会」「学生と対等に接する敬意」「学習能力向上の手助け」について教員は十分に提供していると学生は認識しているので、教員と学生との関係は授業の枠のなかでは十分に築かれていると見なすべきかもしれない。
- ・ 大学進学の原因として「学ぶ内容に興味があった」が高い該当率を示す一方で、「学生生活を楽しくてみたかった」が高い該当率を示している。入学以来できるようになったこととしては「他の学生と友情を深める」が高い該当率を示しており、人生設計の重要な点としては、「自分の生きたい人生を送る」「友人関係を大切に作る」が高い該当率を示している。概して、大学生は学生生活、人生を楽しみ自己実現すべく大学で興味のあることを学ぼうとしており、それを支える友人関係を学生生活のなかで築こうとしていると言える。
- ・ どちらかと言えば K 大学、D 大学に顕著だが、3 大学共通して 1 日 1 時間も勉強しない者が 6 ~ 7 割もいる（O 大学の該当率がやや少ないのは、理科系の学部が全体の割合を多く占めているからかもしれない）。新聞をまったく読まない者も 3 ~ 4 割いる。

個別大学の個性化した特徴は、将来設計、自己評価に顕著に現れていることが明らかにされた。たとえば、K 大学、O 大学の理科系学部は 8 ~ 9 割の学生が大学院進学（修士・博士課程を含む）を希望しており、文科系学部でも 4 ~ 5 割の学生が大学院進学を希望していた。それに対して、D 大学の学生（今回の分析対象は主として文科系学生）で大学院進学を希望する学生はわずか 11.8% しか見られなかった。将来希望する職業の「大学教員」の該当率を見ても、K 大学では文学部 14.3%、理学部 14.1%、教育学部 6.1%、O 大学人文系学部で 5.2% と見られるのに対して、D 大学の社会系学部では 0%、残りの人文系学部でもわずか 1.9% であるにすぎなかった。さらに、自己評価上位 10% 項目として K 大学生が挙げるのは「学力」「競争心」「数理的な能力」であったのに対し、O 大学では「学力」と「体の健康」、D 大学では「やる気」「自己の理解」「体の健康」であった。

以上を大きくまとめると、大学への進学状況、大学教育を通して獲得している能力や知識、大学生生活の過ごし方などは概ね三大学で共通しており、言い換えれば、ある程度大学生一般の姿を映し出していると考えてよいかもしれない。敷衍すれば、大学教育改善の問題が、大学を問わず非常に一般的なかたちで取り込まれるべきであることを示唆しているとも言える。他方で、将来の人生設計や個人の言動を支えるパーソナリティといった心理的側面に、顕著な大学間差が認められる。この質的差異は入学アスピレーションと密接に関わっているとも考えられるが、いずれにしても、学生の質的差異と言い換えられる部分である。各大学がどのような学生を受け入れ育てようとするのかという大学独自の教育理念が問われる部分ではないかと考えられる。

## 参考文献

全国大学生生活協同組合連合会 『CAMPUS LIFE DATA』各年度版

日本私立大学連盟学生部会 1997 学生生活白書 - 新しい大学のあり方を求めて - . 開成出版.

日本私立大学連盟学生部会 2000 学生生活白書: ユニバーサル化時代の私立大学 - そのクライ

謝辞

K 大学での実施に際して全面的にご協力を頂いた英語部会長の丸橋良雄教授，英語部会主任の松田英男助教授，仲介の労を取ってくださった水光雅則教授，田地野彰教授，ならびに，実施にご協力頂いた諸先生方に心よりお礼を申し上げます。また，調査実施に際しても，林哲介教授，吉田純教授をはじめとする教員，学生諸君にもお世話になりました。厚くお礼を申し上げます。また，O 大学での実施に際しては，山成数明教授，秦由美子助教授にお世話になりました。深く感謝を申し上げます。